

12/22 日曜

# 死ペルーやブラジル 因1位にコロナ

【ニューヨーク＝杉藤貴浩】新型コロナウイルスの深刻な影響を受ける中南米諸国のうち、ペルーやブラジルなど五カ国で今年、コロナによる死因が一位になっているとの調査結果を米公共ラジオ(NPR)がまとめた。「貧困や社会的混乱が広がる同地域でコロナが大流行したのは偶然ではない」と指摘している。

調査は、NPRが十二月中旬までの世界保健機関(WHO)のデータなどを分析。死因でコロナが一位だったのは、ほかにチリ、エクアドル、パナマだった。

五カ国のうち、コロナによる死亡率がもっとも高かったペルーでは、百万人当たり千五百人がコロナで死亡した計算。次いでブラジルが八百五十一人だった。感染者、死者とも世界最多の米国では、コロナは死

## 社会的混乱も背景

因の二位。中南米以外で、コロナが死因のトップとなったのは欧州ベルギーだけだった。

調査結果は、大流行の要因として、貧困や過密な生活環境のほか、十分な統治体制の欠如も挙げた。ペルーでは十一月に二度も大統領が交代するなど政治的混乱が常態化。ブラジルではコロナを「ただの風邪」と軽視したボルソナロ大統領が経済活動を優先し、自ら感染するなど対策が迷走した。

また、中南米では国民の健康状態も不良で、調査は「ペルーでは、夏の間はコロナで死亡した人の85%が肥満だった」とする有識者の声も伝えた。

先進国を中心に接種が始まったコロナワクチンを巡っては、WHOの米州事務局の汎米保健機構(PAHO)が、中南米・カリブ海諸国の人口の20%に接種するには一十億ドル(約二千八十億円)以上の費用がかかると試算。財政力の弱い国が多い同地域での普及に向けて、国際的支援も課題となる。



ペルー・リマの教会で6月、ミサの際に飾られた4000人以上の新型コロナウイルス犠牲者の肖像=AP